

令和6年度 新庄村立新庄中学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

評価		A:期待以上【目標を達成した】 B:ほぼ期待通り【おおむね目標を達成した】 C:やや期待を下回る【あまり目標を達成できなかった】 D:改善を要する【目標を達成できなかった】			
自己評価			学校関係者評価		
項目	評価	分析・改善の方策等	項目	評価	自己評価に対する意見等
教育全般	B	「学校へ行くのが楽しい」と感じられない生徒が8人いるのが課題である。今後の対応として、生徒の声をしっかり聴き、日常の声掛けや教育相談等に努めていく。また、生徒が頑張っている様子を学校だより・学年だより・ホームページ等でお知らせして、各家庭の話題にしてもらう。一昨年度より前期（1～4年）・中期（5～7年）・後期（8・9年）で教育活動に取り組み、小中一貫教育が進んでいる。今後も保護者・地域・学校とが協力して、よりよい教育活動を目指していく。	教育全般	B	タイトルを「学校教育についてのアンケート」から「よりよい学校づくりに向けてのアンケート」に変更する。また、「回答数：○名分」から「回答数：○名分／□名」に変更する。質問の項目数が多いの検討をする。 「学校へ行くのが楽しい」と感じられない生徒が8人いることに対して、何とかしてほしい。「学校へ行くのが楽しい」と思える工夫をしてほしい。
授業改善	B	保護者・生徒ともに「分かりやすい授業にしている」「授業は工夫されて分かりやすい」について、肯定的な意見が多い。今後も生徒主体の授業づくりやICT機器を使った授業等を通して授業改善に取り組んでいく。	学習指導	B	授業中の発表の声が小さいのが気になる。 課題がきちんと提出できていない生徒がいるので、提出物をきちんと出せるようにさせる。家庭にも協力してもらう。 中学生になったら（ステージアップしたら）、それなりに責任をもたせたり、モチベーションをアップさせたりすることが大切である。一方的なインプット（受動的）な授業では、興味・関心も少ない。アウトプット（能動的）な授業で、生徒が主体となる授業にしてほしい。大事なことは、分かち合う・一緒に考える・導き出すことである。
学習評価	A	良好な結果である。今後も生徒・保護者に分かりやすい評価の説明を行い、適切な評価をしていく。			
家庭学習の充実	B	宿題や家庭学習について課題がある。学校では、昨年度より自習時間に家庭学習の計画を作成したり、タブレットを持ち帰ってタブレットドリルを行う等、家庭学習が充実する取り組みをしているが、まだまだ定着していない。今後は、学校でも課題の質と量が向上する工夫をし、各家庭での声掛け等をお願いしていく。			
体験的学習	A	「ふるさと新庄学」では、今年度さらに新しい取組を行ったが、生徒は新庄の未来を考えて一生懸命取り組むことができた。7年生も5・6年生をリードしながら取り組めた。今後も地域の方と一緒に活動をしていきたい。			
特別活動	B	生徒会活動についてはおおむね良好な結果である。小中合同行事の企画・運営を行い、生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。しかし、学校行事（村合同運動会・学習発表会等）について、自分が認められたり達成感が感じられたりした生徒の否定的回答が多いのが気になる。小中合同で児童と一緒に取り組んだり異学年交流できていると思っていたが、もっと生徒の声を聴いて工夫する必要がある。コミュニケーション力を高める活動についても、地域の方や他校との交流を工夫することでコミュニケーション力を高めていきたい。	生徒指導	C	「学校へ行くのが楽しい」と感じられないことについての原因として ・悩み事をもっている生徒がいるから ・人間関係がせまい中で互いに悩みながら仲良くしようとしているから ・生徒の意見が入っていないから（やらされ感） ・生徒一人一人が物足りなさを感じているから ・複式学級から単式学級に変わって人間関係がせまくなったから が考えられる。今後の対策として、生徒の声をしっかり聞いて工夫をする。 「学校では、先生が我が子の話をよく聞いてくれる」について、1人の保護者がDの回答をしている。また、「先生は、自分の気持ちや考えをよく聞いてくれる」について、生徒のAの回答が少なくなり、Cの回答が多くなっている。生徒はもっと先生に関わってほしいと感じていたり、先生に悩み事を相談したいと感じている。今後の対応として、教職員はもっと生徒に関わったり、悩み事を聞いたりしていく。 「自分にはよいところがある」について、生徒の否定的回答が多い。いいところを褒めたり、自分のよさに気づかせたりして、生徒にもっと自信をもたせる工夫が必要である。
規律・生活習慣	B	おおむね良好な結果である。ほとんどの生徒は授業規律がしっかりしていて、落ち着いた学校生活が送れている。今後も、あいさつ・整理整頓等に関して指導を行っていく。			
共感的な集団作り	A	生徒会・縦割り班・異学年交流等の活動を通してリーダー性が身についている。今後も、学級活動・生徒会活動・部活動等を通して、お互いが高め合えるような集団作りをしていく。			
教育相談	A	定期的に生徒アンケートをとって教育相談を行うことで、生徒理解に努めている。また、生徒支援委員会で、情報共有を行いながら気になる生徒や事案について協議している。気になる生徒や家庭には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも生徒・保護者と教育相談を行っている。今後も、日常の声掛けをしっかりと行い、生徒の変化を見逃さないように努めていく。また、家庭との連携を密にしていく。			
いじめ防止	B	「いじめ」について、保護者の肯定的回答が高かったのは良かったが、3人の生徒が否定的回答をしているのが気になる。今後も、日頃から生徒の様子をよく見たり、いじめのアンケートや教育相談等を行っていく。各家庭にも何か気になることがあったら、学校の方への連絡してもらう。	保健・安全指導	B	「望ましい生活習慣」について、どんな生活がいいのか例をあげて具体的に生徒に伝えていく。 生徒に夢や目的をもたせて、しっかりと頑張らせてほしい。
保健・安全指導	A	「生活習慣・体力づくり」についての生徒の否定的回答が高いのが気になる。運動する機会を増やしたり、運動する楽しさを体験できるようにしていきたい。健康診断結果の通知や保健だより・掲示物・集会等の呼びかけで、望ましい生活習慣や健康についての情報発信は行っている。			
家庭・地域連携	A	良好な結果である。調理実習（家庭科）、新庄太鼓（音楽科）、職場体験学習（総合的な学習の時間）、スキー実習（体育科）等、地域の方々に多くの活動でご協力をいただいている。また、「ふるさと新庄学」では、村役場や道の駅等の協力をいただき、多くのアドバイスや支援をしていただいている。今後も地域・家庭・学校が協力して、「心豊かにたくましく生きる新庄っ子」を育成していくと同時に「夢や目標をもって頑張れる生徒」「自己肯定感の高い生徒」を育成していきたい。	家庭・地域連携	A	地域コーディネーターの尽力のおかげで、生徒は地域の方々からいろいろな経験を積むことができている。 「9年妊婦体験」では、妊婦の大変さを感じたり、将来に役立てたいと思ったり、親に感謝の気持ちをもったりした。実際に体験させることは大変貴重である。